

困っている人を助ける・フードロスを減らす コープあおもりが取り組む・協力する 食品・生活用品寄付の取り組みについて

コープあおもりには、食品や生活用品を寄付する取り組みとして、コープ東北が実施しているフードバンクの取り組み、宅配・店舗で行っているコープあおもりフードサポートや浪岡物流センターからの農産物提供の取り組み、衛生用品を寄付するサニタリードライブの取り組みがあります。

- まずは、いま行っている取り組み整理をしたいと思います。
- (1) コープ東北フードバンク
 - (2) 浪岡物流センターから社会福祉法人への農産物提供
 - (3) コープあおもりフードサポート
 - (4) サニタリードライブ

(1) コープ東北フードバンク

青森県内では、2016年から取り組みを開始したコープあおもりが加盟するコープ東北が行う「お取引先から無償提供を受けた賞味期限が短い食品」を青森県社会福祉協議会を通じて、県内の各社協から、食料支援を必要としている団体・個人へ無償提供する取り組みです。毎年サポーターを募っています。

(2) 浪岡物流センターから社会福祉法人への農産物提供

2019年から開始した浪岡物流センターで発生する「コープあおもり宅配事業の必要分を除いた残りの農産品」を浪岡物流センターに取り入れることが出来る周辺の社会福祉法人15団体（2年に1回抽選）に提供する取り組み。



▲寄付は直接、社会福祉法人や、「こども宅食おすそ分け便」でお渡しする食品のように配布されるなど様々な活用の仕方をしています。



▲サニタリードライブで寄付された物品。

① 宅配の場合

2022年に開始した寄付する商品にあたる募金を受け付け、その募金で調達した商品を寄付する取り組みです。2025年3月に、受取団体の職員が最寄りの宅配センターを訪れ、寄付品を受け取りました。

② 店舗の場合

2023年開始の偶数月の1日（ついたち）に、組合員が店舗で購入した商品の寄付を受け付ける取り組みです。青森県社会福祉協議会を通じて必要としている団体・個人へ無償提供されています。

(4) サニタリードライブ

① 宅配の場合

2022年に、開始した浪岡物流センターと五所川原地域で行った未開封・未使用のマスクや生理用品などの衛生用品に寄付品とわかるよう専用紙を貼ってもらい宅配ルートで回収し寄付いただく取り組み。一昨年末で浪岡物流センターと五所川原地域のみでしたが、昨年は八戸物流センターと八戸地域でも取り組まれました。

② 店舗の場合

実施日に、ご家庭の未開封・未使用または、店舗でマスクや生理用品などの衛生用品を購入いただいた、それらを寄付する取り組み。地域の社会福祉協議会やワーカーズコープなどを通じて必要としている人に提供します。

浪岡物流センターから提供した農産物を追ってみました

今回、コープあおもりの浪岡物流センターから、青森県社会福祉協議会の協力で行っている社会福祉法人への農産物提供で提供された野菜がどのように使われているのか、社会福祉法人和幸園で実際に使っている様子を見せていただきました。

農産物提供について

浪岡物流センターでは、宅配でお届けする野菜のセット（箱詰め）を行っています。

商品の中には、例えば、箱単位の入荷で注文数と差が出て商品が余るもの。産地での点検時にはなんともなくてもセンターへの輸送中に状態が悪くなるものがあることから、産地や業者が交換用に多めにいれてくれていることから余るものがあります。

また、センターで点検したときに、宅配の商品には向かない状態のものをお届けしないよう分けています。これらの野菜・果物の中には食べられるものがありました。が、取り組みが始まる前は産業廃棄物として処分するしかありませんでした。

2019年から取り組みはじめ、浪岡物流センターに取り入れることができる団体を抽選で決め、現在は15団体に週に1回3団体ずつ

順番に、受け取りに来てもらっています。

提供した野菜は使用に関するルールを守ってもらいながら、各法人で活用してもらっています。今回訪問した和幸園さんでは、フードパントリー形式での配布を行っている他、入居者・利用者への食事提供などに活用されていました。

他団体でも主として、施設の給食に利用されていることが多いです。過去、提供先の法人からは、「受取後の給食が一品増える」、「施設のレクリエーションでバナナを使っている利用者で楽しくお菓子を作った」というお話を聞いています。

和幸園の取り組みについて

社会福祉法人和幸園は、青森市に8拠点を構える社会福祉法人で、介護施設、デイサービス、特養老人ホーム、保育園といった施設の運営、地域子育て支援センターや地域包括支援センターといった相談・支援など、多彩な社会的事業を行う法人です。

提供した農産物は同法人が運営するカフェ「たまゆら」の営業時間前に「農産物おすそ分け便」を行って農産物を配布しています。

カフェ「たまゆら」は、カフェとして営業していますが、受け渡しをしている小田嶋さんによると、

「地域に向けたこども食堂などの取り組みに経営層の理解があり、業務として出させていたという。他の法人の方に話しても珍しい」とのことでした。小田嶋さんは他の施設の施設長で、取り組みが終ると自分の職場に戻ります。

「コープあおもりから、提供量が多いバナナが余ったときに、他の施設で、急速冷凍したものをジュースにして利用者に提供したところ、とてもよくこんでくれた。」と明円常務が教えてくれました。

「たまゆら」の2階では、青森市からの委託を受けて、主に高齢者と家族、地域で支援活動をしている方や高齢者を見守る方が、介護や福祉に関する相談窓口として無料でご利用できる「東青森地域包括支援センター」の運営を行っています。農産物の受け渡しを行っていることを生活に困っている相談に来た方へもお知らせしています。

取材前までに6回行われた受け渡しで、730kg、185世帯に農産物が配布されています。

人とのつながりを大切にしている同法人にとって、農産物の受け渡しの取り組みは、地域で困っている人とのつながりを作ることのほか、施設と地域の橋渡しになっています。



①浪岡物流センターで、受取に来た法人の皆さんが慣れた動きとチームワークで、カゴ車4台分あった提供品があつと言う間に仕分けされ、取りに来た各法人の車両に積まれます。取材時はバナナやきゅうりが多く、珍しいものと植物の苗がありました。



②「たまゆら」に運んだ後、品目ごとに重さを測って記録しています。翌日の配布時まで悪くならないよう適切な品温で保管します。



③受取りやすいように野菜・果物を並べ、今回はバナナ1房、野菜3品、果物1品を選んでもらいました。



▲左から、今回、掲載に協力いただいた特別養護老人ホーム和幸園施設長代行の花田さん、和幸園常務理事の明円さん、軽費老人ホーム和幸園施設長の小田嶋さんと、コープあおもり組合員活動部の西澤さん。

農産物受け渡し場所のカフェ「たまゆら」では、営業時間中美味しいおにぎりやシェイク、ジェラートなどを販売しています。今年から、「こども食堂」（日程は和幸園HPまたはお店でご確認ください）もやっていますので、ぜひ、ご来店ください。



カフェ食堂「たまゆら」

10:30～15:00

(ラストオーダー 14:30)

(定休日：毎週月曜日)

場所：青森市浜館6丁目4-5

(青森県民生協ひまわり館の隣)